

主にある主従関係

2024年1月28日

エペソ 6・5～9
創世記 24・1～9 アブラハムとしもべ
列王記Ⅱ 5・20～27 エリシャとしもべ

序：信仰者の家庭内の秩序：夫と妻、親と子

〃 社会生活における秩序：主人と奴隸（しもべ）

当時と現在では、社会状況が異なる（奴隸制度の有無） 主従 or 労使

社会全般ではなく、キリスト者の主従関係に対する勧め

教会のメンバー：奴隸の信者、主人の信者（同じ主にある兄弟）

I. 奴隸たちよ

主人（地上の主人・肉の主人・人間の主人）に従いなさい

(1) キリストに従うように

〃

霊の主人

(2) 恐れおののいて

(3) 真心から

① ご機嫌取り（歡心を買う、へつらう）でなく

② うわべだけ（本心を偽る）でなく 自分を守るため、得をするため

キリストは完全な神・人間 ⇔ 地上の主人は限りある、不完全な人間

人間の主人をキリストと同等に考えよ、ではない

卑屈な奴隸根性から出る仕え方、態度 ⇔ 自由意志と喜びから出る奉仕

(4) 主に仕えるように

① キリストのしもべとして（主は神と人に仕えた最高の模範）

② 神のみこころ（しもべが主人に仕える）を行う

③ 喜んで（いやいやながらでなく、自分から進んで）

善行（主に従ってなしたよい行い）に対して、主が報いてくださる

(1) たとい、人間の主人が報いてくれなくとも

(2) 人間は一部しか見ていない、知らない、知っていても報いてくれるとは限らない

(3) 主はえこひいきはなさない（奴隸、自由人の身分により差別しない）

Ⅱ. 主人たちよ

(1) 奴隷に対して同じようにしなさい

人にではなく、主に対するように

なぜなら

- ① 地上的・人間的には、奴隷と自由人という確定的な身分の違いはある
しかし、互いに天におられる主を信じている
イエス・キリストが主である信仰の兄弟である

② 主は人を差別なさらないことを知っている

主を信じた奴隷 = キリストに属する自由人

主を信じた主人（自由人）= キリストに属する奴隷

(2) 威嚇するのをやめよ

- ① 自分の自由人・主人という立場は神から与えられたことを忘れて、あたかも当然の特権のようにそれを奮った、脅して屈従させた
- ② 弱者を圧迫し、痛めつけるなら、主のみこころに反する ∴ さばき＝報い
主は奴隷にも主人（自由人）にも公平な方である

Ⅲ. 結び

- (1) 時代的・状況的違い（奴隷制度）があるが、クリスチャン生活の本質的なテーマは変わらない 神を真中にした主従関係とこの世のそれとの違いを知る

- (2) 信仰によって、内側を変えられたからといって、外側（身分や立場）を変えるようには要求されていない コリントⅠ 7・17～24
主が各々をお召しになったままの状態で歩むべき

- (3) 信仰者の夫婦、親子、主従関係の中心に主がおられる
従う（主に従うように） — 愛護する・顧みる（主がなさるように）

- (4) 主にある対人関係は偽り（おもねり、えこひいき、面従背腹、うわべだけ・口先だけ）、悪意、高ぶり、軽蔑などによって破壊される

- (5) 喜んで、快く、自発的に、積極的に主に仕え、聖徒たちに仕えるにはどうすればよいかを考え、実行する（自分がしてほしいように、人にも）

- (6) 私たちの最高の模範はイエス・キリスト

いろいろな場合、イエスさまはどうされたか、どうされるかを調べ、祈る